

### シラガゴケ

最近、コケが静かなブームです。ここで簡単なコケの話を書きます。

#### ●まずはコケとは？

植物ですが、シダ植物と同様に種子を作らずに胞子を飛ばしたりして繁殖します。では、シダ植物との違いは？

シダ植物は根があり、その根を通して水分（水に溶けた養分も）を吸収して、葉に送り光合成をして炭水化物の生産をおこないます。植物体内の水を移動させるために維管束（水を運ぶパイプライン）がありますが、コケにはこのパイプラインがありません。コケを剥がすと根がついているのが見られます、これは、仮根と呼ばれ、植物体を岩や大木の幹などに固定するための器官で、水分の吸収は葉や茎の細胞が直接行います。

### 岩に張り付くヒムロゴケ



ここでの表記を苔をコケとしているのは、コケの分類のことが関係します。

その分類は、苔類（たいるい）、蘚類（せんるい）、ツノゴケ類の3系統に分類されています。

その為、この3種をさす場合には「コケ」と表記します。

#### ●苔類の代表的なもの

葉が深くきれこまない形態でゼニゴケの仲間が代表です。

#### ●蘚類の代表的なもの

この仲間は、茎が発達し、葉が切れ込んでいる特徴があり、よく目にするコケの仲間になります。

### トヤマシノブゴケ



どのコケも雨水を直接細胞に取り込むため、大気汚染物質などが溶け込んだ雨水の影響を受けやすいため、環境指標として利用されることもある繊細な生き物ですが、太古の時代に初めて陸上に出現した植物で、光合成をして酸素を作りながら脈々と生き続けているタフな生物でもあります。

### ジャゴケ



#### ●ツノゴケ類の仲間



### ツノゴケ

## ●根を持たないコケ

コケは、必要な水分を葉や茎の細胞が直接体内に取り込みます。同様に蒸散も行います。取り込む水分は、雨水や沢の飛沫など養分の乏しい水になります。これはコケの生育にとってその生存を左右する大きな問題で、ミネラルなどを多く含んだ水分、養分が豊かな水などは、蒸散の際に水分だけが蒸発し、細胞内に無機塩類(ミネラル)が蓄積して塩類集積をおこして枯れてしまいます。地上の養分の少ない水分だけに頼っている一方、乾燥が続いた時は、葉を丸めてチリチリの形態をつくり、休眠し長いこと生き長らえることができます。

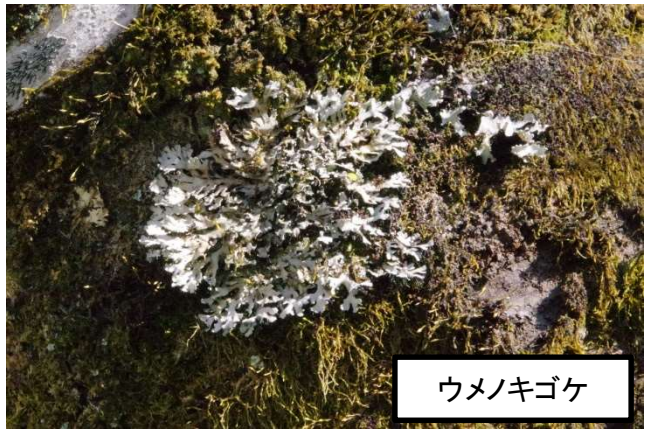


クラマゴケ

コケと呼ばれる植物の中に、苔類、蘚類、ツノゴケ類に入らないコケ以外のものがあります。

左の写真は「クラマゴケ」です。名前にコケと付いていますが、シダの仲間になります。一方クラマゴケモドキというコケもあります。

下の写真は幹につくウメノキゴケですが、これもコケと名がついていますが地衣類になります。地衣類は藻類とバクテリアが共生している生命体でコケとは異なります。



ウメノキゴケ



アラハシラゴケ

下の2種類のコケは、葉が広く、コケっぽくないコケになります。



トラノオゴケ

上や左のコケは、コケらしいコケになります。

このように、コケ植物の形態は多様で、その外見から判断するのが難しいと思っています。



コツボゴケ



チャボスギゴケ

脆弱な植物ですが、地上で一番古い植物でしたたかに生きています。



ウチワゴケ